

Keiba Global Front Line

競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人をご紹介します



合田 直弘

皆様がこの会報を手にとられるのは、英国と米国で3歳牡馬と牝馬のクラシック初戦が行われる直前かと思う。5月3日にニューマーケットで行われる、英国における3歳牡馬クラシック初戦のG1二千ギニー(芝8F)で、おそらくは1番人氣に推されるであろうエクスパンデッド(牡3、父ウートンバセット)が、今回のこのコラムの主役だ。

シーズンオフを通じて、二千ギニーの前売りで1番人氣の座にあつたのは、ザライオンインウインター(牡3、父シーザスターズ)だった。ゴフスオービー1歳市場にてクールモアに37万5千ユーロ(当時のレートで約596.9万円)で購買され、エイダン・オブライエン厩舎の一員となった同馬。7月20日にカラで行われたメイドン(芝7F)を制しデビュー勝ちを果たすと、8月21日にヨークで行われたG3エイコムS(芝7F)も制し無敗の重賞制覇。2戦2勝で2歳シーズンを終えたザライオンインウインターは、スタミナ豊富な血統背景を持つため、G1二千ギニーだけでなく、2冠目のG1英ダービーの前売りでも抜けた1番人氣に推されていた。ところが、英国における今季の芝平地シーズン開幕を5日後に控えた3月24日、オブライエン厩舎で催されたメディア・モーニングの場で、ザライオンインウイン

ターの調整が遅れていることを調教師が公表。「二千ギニーには間に合わないかも」とコメントしたことで、同馬は1番人氣の座から陥落。代わつて本命の座に浮上したのが、ザライオンインウインターと同厩のエクスパンデッドだった。

エクスパンデッドは、エイダン・オブライエン師とその夫人による競馬組織ウイスパービュ・トレーディング社による生産馬だ。母ジグソウは未勝利馬だが、その全弟にG2ロイヤルロジス(芝8F)など2重賞を制したマタホークがいて、祖母エンパワリングがG3レパーズタウン千ギニートライアル(芝7F)勝ち馬という血統背景を持つ。エクスパンデッドの1歳年上の半兄ヘンリーアダムスは、G3タイロスS(芝7F)を制した他、G1ジャンルクラガルデル賞(芝1400m)4着、G1デューハーストS(芝7F)4着の実績を残した。母の父はガリレオで、ガリレオ牝馬にウートンバセットという配合は、昨年のG1ベルリン大賞(芝2400m)勝ち馬アルリファと同じである。

エクスパンデッドは、クールモアグループの所有馬として、生産者が営む厩舎に入厩。半兄ヘンリーアダムスは7月8日にデビューと仕上がりが早い方だったが、半弟エクスパンデッドは秋まで競馬場に姿を現さず、10月5日にカラで行われたメ

イドン(芝7F)がデビュー戦となった。スタートダッシュが鈍かった同馬は、前半は14頭立ての中団を追走。残り500m付近から鞍上W・ローダンが追い出した直後は、反応があまり良くないように見えたが、エンジンがかかったのがゴール前100mからで、ゴール直前で先頭に立つてデビュー勝ちを果たした。

驚いたのは、エクスパンデッドがここから連闘で10月12日にニューマーケットで行われたG1デューハーストS(芝7F)に使ってきたことだった。そこには、前述したザライオンインウインターも出走予定だったのだが、当日朝に挫石のため出走を取り消し。ザライオンインウインターに騎乗予定だったライアン・ムーアが手綱をとることにしたエクスパンデッドは、ここでは好スタートから2つに分かれた馬群の外側を先導。大接戦となったゴール前で、G1ミドルパークS(芝6F)を勝つての参戦だった1番人氣のシャドウオウライト(牡3、ロベドヴェガ)に首差先着を許したが、キャリア1戦で、しかも連闘での出走だったG1での僅差2着は、その内容を高く評価されることになった。オブライエン師が、順調に仕上がっているとコメントしたエクスパンデッドが、二千ギニーで見せるパフォーマンスに注目したい。